

みんなのた場



空手の国際大会で優勝
高橋 さくらさん (14)
〓 蛇田中学校3年 〓

負けず嫌いで研究熱心 全国制覇目標に猛稽古

昨年8月にタイのバンコクで開かれた第2回アジア・オセアニア空手道選手権大会の少年の部14歳女子組手で優勝しました。今年9月、盛岡市で開催予定の小学生・中学生全国空手道選手権大会で、小学5年以来となる2度目の全国制覇を目指しています。



2度目の全国制覇を目指し稽古に励む高橋さん

別に組手、形の個人戦、団体戦を行いました。高橋さんは、トーナメント戦を順調に勝ち抜き、決勝では長身のタイの選手を相手に中段突きを2本決め2-0で勝利。「会心の試合でした」と振り返ります。

「海外の選手は、日本の選手と空手のスタイルが違い、やりにくい面もありますが、対戦を重ねるうちに、相手の動きに合わせて技が出せるようになりました。」

と話す高橋さん。国際大会は、平成26年10月に東京で開かれた第13回少年世界空手道選手権大会の9歳女子組手で3位に入賞しています。

アジア・オセアニア大会に同行した母のあづささんは「自宅にいるときも高橋生の全国大会などのビデオを見るなど研究熱心。その成果が国際舞台でも発揮されました」と、家族ぐるみで快挙を喜んでいきます。

兄と姉が空手を習っていたことから4歳で日本空手協会石巻支部に所属。清水町にある湯殿山神社の会館で毎週2回、幼稚園児から一般まで55人の支部会員と一緒に稽古に励んでいます。

石巻支部の鈴木道男支部長(72)は「負けず嫌いな性格が試合でも生かされています。空手の素質があるのでも、良い面をどんどん伸ばし、さまざまな大会で優勝できる選手に育ってほしいです」と期待します。



112

資料調査、コツコツと

文化財レスキュー事業

生涯学習課

東日本大震災では数多くの文化財が被災し、それらを修復し、守るために文化財レスキュー事業が行われました。文化財レスキュー事業により救出された資料のひとつに牡鹿町誌編さん資料があります。牡鹿町誌編さんのために旧牡鹿町内外から集められたもので、内容は古文書や編さん委員の勉強ノート、写真、執筆原稿など多岐にわたり、木箱300箱を超える膨大な資料群です。

旧牡鹿公民館からレスキューされた後、東北福祉大学で一時保管と資料の薰蒸を行い、その後東北学院大学博物館へ移送され、現在は旧湊第二小学校の校舎を利用した文化財収蔵庫に保管されています。

数年前より牡鹿地域の文化の掘り起こしのため、東北学院大学文学部歴史学科民俗学ゼミナール、市の学芸員により資料の再整理を行っています。資料1点1点の写真撮影を行い、目録を作成しています。かつて流刑地であった網地島・田代島に関する古文書や罪人一人一人の調査、捕鯨が盛

んだった鮎川ならではの関連資料など、作業を進めていくと興味深い資料がたくさん出てきます。資料から編さん委員が楽しく、そしてとても熱心に勉強した様子が見てとれます。

震災により牡鹿地域は大きく変わってしまいました。この春にはホエールランドも再オープンする予定です。震災から10年目を迎える、今後復興を遂げ盛り上がる牡鹿地域の歴史や文化を市民のみなさんと共有できるように、地道に整理作業を続けていきます。



資料整理作業の様子



明治時代の大謀網関係資料



元楽天選手の草野さん プロの打撃術伝授 石巻野球会議・協会が合同野球教室

プロ野球東北楽天の選手、コーチとして活躍し、現在は野球解説者の草野大輔さんを講師に招いた野球教室「指導者・選手の打撃塾」が2月22日、遊楽館アリーナで開かれました。石巻地方の小学生から社会人までの野球チームの指導者と、市内のリトルシニアチーム、中学校野球部の選手ら合わせて約100人が聴講しました。

草野さんは、投球、打撃、守備のうち、プレーの醍醐味でもある打撃に重点を置いて解説。ヒットを打つポイントとして「投手がボールを持った手を下ろす瞬間、ボールが手から離れる瞬間、左足の着地の瞬間などに注意するとタイミングが取れる」などとアドバイスしました。

選手からの「普段の部活動で心掛けるべきことは」との質問には「100回の打撃練習より素振りを200回した方が良い」と回答。「素振りですっかりフォームを固めることは、イメージトレーニングにもなる」と強調しました。

教室は、野球人口の拡大と人材育成事業を展開する石巻野球会議と石巻野球協会が合同で開催しました。

雄勝 被災地を花と緑で飾ろう

地区住民ら55人が植樹活動



Topic of town まちの話題



東日本大震災の被災地を花と緑で再生しようと、雄勝ガーデンパーク計画の第一弾として、植樹活動「おがつ植樹DAY」が2月14日、上雄勝の新山神社付近で開かれました。地区住民ら55人が参加し、蔵王苗圃(蔵王町)の太田富造社長の指導を受け、約800平方メートルの敷地にサトザクラ、シダレザクラ、アセビの苗木の計70本を植樹しました。参加者は、数年後に美しい花が咲くのを楽しみにしながら、汗を流しました。

河北 ふるさとの風と海の幸を満喫

大川地区思い出バス第2弾

2月23日、大川地区模型プロジェクト主催の「大川地区思い出バス」の第2弾が運行されました。当日はあいにくの天候でしたが、参加者は防潮堤に囲まれた長面海岸を巡り、一変した景色を眺めました。その後、はまなすカフェの交流会で今が旬の「長面浦の牡蠣」をはじめとした数々の海の幸を堪能し、東北ユースオーケストラによるミニコンサートも楽しみました。



石巻 「火炎放射」ゲーム楽しむ

萬画館の「張々胡誕生祭」にぎわう

石ノ森章太郎の代表作「サイボーグ009」に登場するサイボーグ006張々胡の誕生祭が2月29日、石ノ森萬画館で開かれました。張々胡を紹介するパネル展示や、戦士としての能力にちなみ、炎に見立てた10個のピンポン玉を転がして的確に倒す「火炎放射」ゲームが来場者を楽しませました。展望喫茶では、中華飯店「張々胡」と銘打ち、倍盛り炒飯などの当日限定メニューを提供し、人気を集めました。



桃生 統合50周年の節目祝う

桃生中学校で記念式典

桃生中学校の統合50周年記念式典が2月22日、同校体育館で開かれました。全校生徒176人と地区住民ら合わせて約300人が出席し、昭和44年に中津山、桃生の2中学校が統合してから半世紀の節目を祝いました。第1部の式典に続き、第2部では同校の元教員で女川町教育委員会教育長の村上善司氏が記念講演。生徒と卒業生による「はねこ幻想」と、校歌50周年記念バージョンの記念演奏も行われました。



河南 火の元の確認 忘れないで

車両パレードで住民に呼び掛け

春の全国火災予防運動初日の3月1日、市消防団河南地区団の「春の防火パレード」が行われました。河南総合支所前で総合支所長、地区団長らから激励を受けた後、団員や婦人防火クラブ員ら50人が消防車など16台に分乗して出発。前谷地、鹿又の2コースに分かれて区内を巡り、「お出掛け前、お休み前にもう一度、火の元を確認しましょう」と呼び掛けました。



牡鹿 「ほっとまる」感謝祭にぎわう

合同で牡鹿稲井商工会「青祭」

牡鹿交流センター「ほっとまる」で、感謝祭が2月9日に開かれ、多くの住民らでにぎわいました。鮎川婦人会によるフラダンスショーをはじめ、はらこ飯や新鮮な野菜の販売、サンマつまみれ汁の無料配布、くじ引き抽選会がありました。牡鹿稲井商工会青年部の「青祭」も合同で行われ、一般参加のカラオケ大会などで盛り上がりました。



北上 ワカメ詰め放題が大盛況

観光物産交流センターで2周年祭

北上観光物産交流センターで2月11日、オープン2周年記念祭が開かれました。目玉はシーズンを迎えた十三浜産ワカメの詰め放題。朝から多くの買い物客が訪れ、約250kg分のワカメが午前中で完売しました。セリ鍋やはつと汁など、地元のグルメも提供され、冷えた体を温めました。同センターは、市が整備した地区唯一の物産施設で、東日本大震災の津波被災跡地を活用し、2018年2月に完成しました。

